

農業委員会だより



図画の部 最優秀賞作品【いね刈りの仕方】

祝 横手食育見聞録20周年！



図画
の部



最優秀賞

すずき めりあ
鈴木愛璃杏さん
大森小学校

作文
の部



最優秀賞

たかはし るめい
高橋 露明さん
山内小学校

*受賞作品は4頁目に掲載

第20回という節目を迎えました本コンクールを記念し表紙は今回の図画の部、最優秀作品を掲載することといたしました。この作品では稲を手に持ち、鎌で今まさに刈り取った瞬間を描いています。収穫の喜びが秋の乾いた空気の下、ガサガサとした稲わらの感触とともに伝わってくるようです。

また、4頁には作文の部の最優秀作品を掲載しています。稲作を引退した祖父への思いを趣深く著しており、高齢化が進む農業の課題にも示唆を与える秀作です。

応募された全ての作品は子どものまっすぐなまなざしによって色彩の豊かさにあふれ、また、軽やかに躍動的に記されており、私たちの心を動かすものばかりでした。

これまでの歩みに感謝しつつ、これからも子どもたちの豊かな学びと成長を、あたたかく見守っていく存在でありたいと思います。

広報・食農推進委員会 副委員長 高橋 正也



委員活動報告



16 女性の登用促進に向けた研修会に参加してきました

秋田県農業委員会女性協議会主催「農業委員・農地利用最適化推進委員への女性の登用促進に向けた地区別研修会」に参加し、全国で活躍する女性農業委員の活躍を知り、とても刺激を受けました。

特に、北秋田市の女性農業委員の方々による「遊休農地解消活動」発表に感銘を受けました。

木に覆われた土地を伐採・草刈りで整備し、5回にわたる耕起

作業の末に、トウモロコシの収穫、販売

できた取り組みは、努力と工夫の積み重

ねのすばらしさを感じました。こうした活動が広がれば、新規就農者への農地提供やノウハウ共有、移住・定住にもつながると考えられます。

私自身も、この研修で学んだことを地域での活動に活かし、農業や地域の未来につなげていきたいと思っています。

(文：高田恵律子 農業委員)



▲北秋田市の取り組み内容です

11/1 秋田県農業委員会大会に参加して



▲政策提案や緊急要請は、11月末に国会議員へお届けしています

令和7年11

月1日、湯沢文化会館にて秋田県農業委員会大会が開催され、全県の委員・推進委員が一堂に会しました。大会では、「食料・農業・農村基本計画」に基づく施策

の実践に向けた政策提案を決議するとともに、農業構造転換集中期間の施策実効性確保や、新たな水田農業政策の確立に向けた緊急要請も併せて決定しました。決議された政策提案は、11月末に「県選出国会議員要請集会」において直接要請しました。こうした活動を通じ、横手市農業委員会が地域の皆さまの役に立つことを目指しています。

農地は先人たちの努力で築かれた地域の宝であり、次世代へ継承していくことが重要です。

今後とも、農業委員会へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

(文：飯野正和 会長)



1/22 よこて農業創生大学校農業技術研修生と意見交換を行いました

今年度の意見交換会は、堅苦しい雰囲気ではなく、ざっくばらんに話ができて、とてもよい時間になりました。

研修生の皆さんからは、冬の時期の収入をどう確保すればいいのか、就農する際に畑をどのように準備しておけばいいのかなど、実際に就農を考えているからこその率直な相談がありました。こちらも経験を交えながら意見を交わすことができ、研修生の不安や思いを身近に感じることができました。

今後このような話しやすい場を大切にしながら、研修生の皆さんが安心して就農できるよう、農業委員としてできる支援を続けていきたいと思っています。

(文：小松田英人 農業委員)



▲冬季間の過ごし方や、家族経営での適切な距離感など、話がはずみました！

搾乳体験で思うこと

私が初めて搾乳体験を行ったのは20年以上前、某スーパーの駐車場でした。当時は牛の安全柵もなく準備に多くの時間を要しましたが、子どもたちは体験を通じて大きく変化しました。最初は鼻をつまんで怖がっていた子どもも、終わるころには牛に抱き着くほど楽しみながら学んでいました。

AIやSNSなどバーチャルな世界が広がる現代において、五感を使う搾乳体験は、子どもたちの精神的成長につながる貴重な機会となります。今後も教育委員会やJA、牛乳普及協会などの協力のもと実施し、私のライフワークとして子どもたちに喜びと感動を届けるとともに、この体験をきっかけに新たな牛飼いに携わる人材が育つことも願っています。

(文：千葉 肇 農業委員)



▲今年度は栄小学校で体験活動を行いました

大日本農会主催

「令和7年度農事功績表彰 緑白綬有功賞受賞」



昨年11月に受賞された農地利用最適化推進委員をご紹介します。

齊藤龍平氏は、ソバと水稻を組み合わせた集落営農組織「農事組合法人きずな」を設立し、20品目による周年生産を実現しました。J-GAP認証による安全・安心な生産体制を確立するとともに、担い手育成や後継者不足農地の受け皿として地域農業の活性化に貢献しています。

立するとともに、担い手育成や後継者不足農地の受け皿として地域農業の活性化に貢献しています。

横手市の
賃借料情報

令和7年1月から令和7年12月までに締結(公告)された農地の賃借料情報(10aあたり)一覧は3/15に全戸配布されたチラシまたは市HP(ID:1010556)をご参照ください。



農地転用や土地開発を予定されている方へ
(農業振興課からのお知らせ)

農用地区域からの除外手続きについて

市が定める「農業振興地域整備計画」における農振農用地区域内農地について、やむをえない事情により農地転用や土地開発を行う場合は、事前に対象区域からの除外手続きが必要です。

令和8年度より、除外手続きの受付期間や回数が変更となります。事前審査に時間を要しますので、あらかじめ余裕をもってご相談ください。

*詳細については、市HPにてご確認ください。

	申出受付期間(締切厳守)	農業委員会総会(予定)	計画変更(見込)
第1期	4月6日(月)～6月5日(金)	8月17日(月)	10月下旬
第2期	7月6日(月)～9月4日(金)	11月16日(月)	1月下旬



問合せ：農業振興課 ☎0182-32-2112

市HPID：1003613▲

第20回横手食育見聞録作文・ 図画コンクールを開催しました

農業体験をして得たことや農産物を通して家族とのコミュニケーション、食べ物に関する体験を通じて感じたこと、考えたことをテーマに、市内小学5年生を対象とした「作文・図画コンクール」を開催しました。

20回目を迎えた今回も、たくさんの方の作品(作文108作品、図画175作品)の応募があり、令和8年2月18日に、市教育委員会ご協力のもと、両部門ともに、最優秀賞1名、優秀賞5名を選出いたしました。

おめでとうございます

第20回横手食育見聞録 作文・図画コンクール受賞者

作文の部

- 最優秀賞 山内小 高橋 路明さん じいじの米
- 優秀賞 横手南小 大内 創太さん おうちで挑戦!!ぼくの横手やきそば
- 優秀賞 横手南小 大隅 萌由さん ひいおばあちゃんの作る果物たち
- 優秀賞 吉田小 柴田 侑太朗さん 命をいただく大切さ
- 優秀賞 雄物川小 佐々木 望祐さん 苗箱の重さが教えてくれたこと
- 優秀賞 山内小 平山 真莉さん 家族で受けつぐいものこ作り

図画の部

- 最優秀賞 大森小 鈴木 愛璃杏さん いね刈りの仕方
- 優秀賞 横手南小 佐々木 珠羽さん 思い出のりんご狩り
- 優秀賞 横手南小 寺田 耕太郎さん 庭で育てたミニトマト
- 優秀賞 雄物川小 佐藤 凛さん 手からつながるわたしたちの食卓
- 優秀賞 雄物川小 下総 唯さん 私のおにぎりができるまで
- 優秀賞 雄物川小 宮田 壱琉さん 田んぼからごはんまで

横手食育見聞録とは?

小学生が自らの食と農について考える習慣を大切に、生涯を通じた健全な食生活実現のために、市農業委員会では「食」と「農」への推進に努めています。



作文の部 最優秀賞

山内小学校 5年 高橋 路明さん

「じいじの米」

ぼくの家では、ずっとじいじが作ったあきたこまちを食べていました。じいじは毎年春になると田植えをし、あつい夏も毎日田んぼの手入れをして、秋にはおいしいお米をたくさん収穫していました。

しかし、じいじは年を取り、体力がなくなってきたので、去年で田んぼをやめることになりました。ぼくは、じいじが毎年いっしょうけんめい働いているところを見ていたので、ちよっとさびしい気もちになりました。

いっしょに田んぼへ行ったことがあります。毎日通うのは大変だったと思います。きっと家族のためにかつたんだと思います。じいじは田んぼをやめてしまいましたが、ぼくはじいじのお米の味をわすれないと思います。

これからは、スーパーで買ったお米も大事に食べようと思います。そして、じいじには「じいじの作ったお米が世界で一番おいしいよ。」と伝えたいと思います。そしていつかじいじにお米作りについて聞いてみたいです。

今は、スーパーでお米を買って食べています。スーパーのお米もおいしいですが、何かがたらないような気がします。それはなにか考えてみました。その理由は、じいじのお米には、家族に美味しいお米を食べさせたいというじいじの気持ちがいっぱいいたからだだと思います。じいじはこしが痛いと言いながらも、毎日田んぼへ通っていました。ぼくも



作物を育てる時間と、子どもが育つ時間。そのどちらも、日々の積み重ねの中で形作られていきます。

食と農について考える「横手食育見聞録作文・図画コンクール」は、子どもたちが食や農に向き合うきっかけの一助として開催し、そのつながりを子どもたちの視点で見つめ続け、今年で開催20周年を迎えました。

今号では、当時受賞した児童の保護者から寄せられたメッセージをご紹介します。

家庭での会話や体験を通して育まれた思いは、今もそれぞれの人生の中で息づいています。子どもの成長を見守ってきた親の言葉から、食と農が持つ力を改めて感じていただければ幸いです。



食べることへの興味から、まちの未来へと

まちづくり推進部 次長

兼 横手の未来とものつくる課

課長 **高橋 美貴子**さん

(第41号掲載 作文受賞者
高橋岡さんの母)

親子で横手市政に
尽力しています！



子どもの作文は、食べることがどれだけ好きかを熱く訴えたものでした。その後、食べることへの興味が、食文化や農産物の流通、生まれ育った農業地域である横手への思いへと広がり、大学で「食と農」は環境や健康、福祉、経済、地域振興など多様な分野とつながりをもつことを学び、念願かなって横手のために働く機会を得ています。

今振り返ると、コンクールが食と農に対する考え方や視点を持つきっかけとなり、子どもの将来へとつながったように思います。

この事業が、これから大きくなる皆さんにとって将来につながる種を見つけるきっかけになればと思います。そして、その種が育ち、花を咲かせ、たくさんの実がなるよう願っています。

私はというと「おいしく食べることが、食べられる生き物たちへの礼儀であり感謝」が信条の子どもと、おいしいツマミでお酒を飲みながら、横手の未来について熱く語り合う・・・コンクールから20年を経て、幸せな毎日につながっています。

20回目を迎え、皆さまに感謝

この事業に携わり、子どもたちの素直な視点や豊かな感性に、審査する私たちは、毎年多くの気づきと感動をもらっています。特に私が目にした作品からは、家族や地域でのコミュニケーションや、自然への想いがあふれ伝わってきたものです。

表彰の際には、ダイナミックな絵や、ほっこりする作文を書いたのが「この子」だったんだと、受賞した子どもたちの笑顔を見るのが、毎年の楽しみでした。

本事業は、先日20回目の作文・図画コンクールを無事、盛会裏に終わることができました。20回目を迎えることができたのも、学校関係者の皆さま、関係団体の皆さま、そして何より参加してくれた子どもたち一人ひとりのおかげです。

今後も関係機関等と協力しながら、次世代を担う子どもたちが自分ごととして横手市の食と農について考える機会を提供できますよう尽力してまいります。

広報・食農推進委員会

委員長 **木村 由美子**さん



【第20回作品展示会のお知らせ】

*お近くにお立ち寄りの際は、子どもたちの力作をどうぞご覧ください。

【展示予定①】

期間：令和8年3月27日(金)午後5時
～令和8年4月3日(金)午後3時
会場：Y²ぶらざ 1階オープンスペース

【展示予定②】*受賞作品のみ展示

期間：令和8年初夏
場所：横手公園展望台(企画展)



これまでたくさんのお子どもたちに
応募いただきありがとうございました

20年間の応募延べ作品数(実績)

作文 3,862点

図画 5,845点

※これまでの受賞作品(過去5回分)は、市HP(ID:1003534)へ掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

作品集はこちらから(→)



農業者年金のこと

もっと教えて! たもつ君!



このコーナーでは、農業者年金のことならなんでもわかる“たもつ君”がみんなの疑問に答えるよ!

第2回 季節労働(除雪作業員)をしながら、年金に加入はできるの?

農業者年金の加入条件は、次の3つに当てはまった方が対象です!

- ① 年間60日以上農業に従事
- ② 20歳以上65歳未満*1であること
- ③ 国民年金の第1号被保険者*2

*1 60歳以上は、国民年金の任意加入被保険者
 *2 保険料納付免除者を除く

詳しく知りたい方は、農業委員会事務局や最寄りの秋田ふるさと農協窓口へお気軽にご連絡ください♪

もっと教えて! たもつ君!

登場人物紹介 注: 架空設定につき実在する農業者委員とは無関係です

たもつ君…雄物川のスイカ畑から農業者の皆さんへ「農業者年金制度」をわかりやすく伝えるよ!
 たけしさん…十文字で稲作しながら農業者年金に興味のある44歳。

“農業者年金のこと、もっと教えてたもつ君”は、令和8年4月～6月放送予定の「横手かまくらFM」内「よこてタウンメッセージ」のコーナーに出演します!
 ラジオチャンネルは77.4MHz!
 お楽しみに♪

※諸事情により、放送期間や内容は変更となる場合がありますので予めご了承ください。



▲横手かまくらFM公式サイト



たもつ君、役場から除雪の仕事頼まれてれば、農業者年金さ入りたくても入れねんだべ?

横手市の冬道の安全を支えてくれるたけしさんに感謝!
 除雪作業員ということは、厚生年金に切り替わるんですか?



普通んだべ?

季節労働の場合、必ずしも厚生年金に加入するとは限らないんですよ。
 雇用内容によって対象条件が異なるので、まずは一度仕事先の給与厚生担当者に確認してくれますか?



厚生年金だば加入できねんだべ?

はい。農業に従事している方は加入要件を満たせばどなたでも加入できるんですが、厚生年金の間は加入できないんですよ。



厚生年金でねがったらなんとせばいい?

その場合、農業者年金の加入要件である「国民年金第1号被保険者」のまま、つまり冬場は除雪作業員だったとしても、問題なく通年で農業者年金に加入できますので、いつでも加入申込書をお渡しできますよ!



へば、ちょっと仕事先さ確認してみるが!



(独)農業者年金基金



市HP(ID:1002533)

令和8年度農業委員会総会情報

★農地の権利移動、農地転用などの各種申請に対する締切日は、市HP(ID番号:1013047)にて最新情報をご確認ください。



広報・食農推進委員会

- | | | | | | | | | |
|------|------|-----|------|------|-------|-----|------|-------|
| 武藤吉喜 | 小松英人 | 高橋馨 | 高田恵子 | 新山夏武 | 小笠原夏子 | 千葉肇 | 高橋正也 | 木村由美子 |
|------|------|-----|------|------|-------|-----|------|-------|

店頭で米の価格を見て、以前の違いを感じた方も多いのではないのでしょうか。毎日の食卓に欠かせないものだからこそ、家計への影響を実感する場面もあります。

一方、米づくりの現場では、肥料や燃料、資材の価格上昇が続く、収穫を迎えても収入に繋がりにくい状況が見られます。

加えて、担い手の高齢化や後継者不足といった課題もあり、地域の米づくりを取り巻く環境は年々変化しています。

農業委員会としては、生産者と、消費者の双方の状況を踏まえ、農地の確保や地域農業の維持を通じて、食の基盤を支える役割を担ってまいります。

編集後記

